

- 9) 鈴木英美子, 劉 兆鵬, 柴田哲男, 竹内義雄: 新しい求電子的フッ素化試薬, *N*-フルオロベンゾチアジン誘導体の開発. 日本薬学会北陸支部第100回例会, 1999, 6, 金沢.
- 10) 瀬川 大, 高橋たみ子, 竹内義雄, 甲 國信, 甲 千寿子: 新規キラル誘導化試薬CFTAのキラル1級アミンの絶対配置決定法への応用. 日本薬学会北陸支部第100回例会, 1999, 6, 金沢.
- 11) Takeuchi Y., Shiragami T., Liu Z., Suzuki E., and Shibata N.: A novel method for stereoselective and sitespecific fluorination of important medicinal agents. Symposium on Fluorinated Bio-Active Compounds for the Agricultural and Medicinal Fields, 1999, 9, Brussels, Belgium.
- 12) 劉 兆鵬, 柴田哲男, 竹内義雄: 不斉フッ素化試薬の開発研究: メントンを分子内に組み込んだ光学活性フルオロスルタムの合成. 日本薬学会北陸支部第101回例会, 1999, 11, 富山.
- 13) 高橋たみ子, 瀬川 大, 竹内義雄, 藤原朋也, 小俣乾二, 甲 國信, 甲 千寿子: 新規絶対配置決定法としてのCFTA法 (2)-アミン, アミノ酸への適用-. 第23回フッ素化学討論会, 1999, 11, つくば.
- 14) 藤澤英仁, 高橋たみ子, 竹内義雄, 大熊 毅, 小泉昌稔, 野依良治: 新規絶対配置決定法としてのCFTA法 (3)-ベンズヒドロール類への適用-. 第23回フッ素化学討論会, 1999, 11, つくば.

◆ その他

- 1) 原田和行, 釣 敬, Das B.K. 柴田哲男, 竹内義雄: F-H水素結合を利用するワトソン・クリック型塩基対擬似モデルの合成. 有機合成化学北陸セミナー, 1999, 10, 福井.
- 2) 柴田哲男, 白神友樹, 木村健一, 鈴木英美子, 竹内義雄: 光学活性フルオロサリドマイドの合成. 有機合成化学北陸セミナー, 1999, 10, 福井.
- 3) 田中昌子, 劉 兆鵬, 柴田哲男, 竹内義雄: 不斉フッ素化反応剤, BMIT-Fの合成. 有機合成化学北陸セミナー, 1999, 10, 福井.
- 4) Das B.K. 柴田哲男, 竹内義雄: 窒素上に*p*-フルオロフェニル基を持つペプチド類の合成. 有機合成化学北陸セミナー, 1999, 10, 福井.

薬 剤 設 計 学

物 理 化 学 研 究 室

教 授 上 野 雅 晴
助 教 授 吉 川 広 之
助 手 柏 木 寛

◆ 著 書

- 1) 上野雅晴: 溶液. 「物理化学第2版」桐野 豊編, 66-90, 廣川書店, 東京, 1999.
- 2) 上野雅晴: 溶液. 「物理化学スタディーガイド」桐野 豊編, 64-79, 廣川書店, 東京, 1999.
- 3) 上野雅晴: リポソームの物理化学的性質. 「物性物理化学」大島広行, 半田哲郎編, 189-196, 南江堂, 東京, 1999.
- 4) Takada K. and Yoshikawa H.: Oral drug delivery. Traditional. In encyclopedia of controlled drug delivery. by Mathiowitz E. (Ed.) 729-742, John Wiley & Sons, Inc., New York, 1999.
- 5) 橋田 充, 吉川広之: DDSと創薬の将来. 「今日のDDS-薬物送達システム」高橋俊雄, 橋田充編, 410-416, 医薬ジャーナル社, 大阪, 1999.

◆ 原 著

- 1) Kogure K., Okuda O., Nakamura C., Hayashi K., and Ueno M.: Effects of Incorporation of Various Amphiphils into Recipient Liposome Membranes on Inter-Membrane Protein Transfer. Chem. Pharm. Bull. , 47: 1117-1120, 1999.
- 2) Yoshikawa Y., Yoshikawa H. and Takada K.: WinPBPK-A software for physiologically based pharmacokinetic model analysis: application to tissue and organ distribution analysis of taclolimus. Metab. Disp., 14: 22-31, 1999.
- 3) Hu Z., Kimura G., Ito Y., Mawatari S., Shimokawa T., Yoshikawa H., Yoshikawa Y., and Takada K.: Technology to obtaine sustained release characteristics of drugs after delivered to the colon. J. Drug Target., 6: 439-448, 1999.
- 4) Yoshikawa Y., Komuta Y., Nishihara T., Itoh Y., Yoshikawa H, and Takada K.: Preparation and evaluation of once-a-day injectable microspheres of interferon alpha in rats. J. Drug Target., 6: 449-461,

1999.

- 5) Yoshikawa Y., Hu Z., Kimura G., Murakami M., Yoshikawa H, and Takada K.: A dissolution test for a pressure-controlled colon delivery capsule: Rotating beads method. *J. Pharm. Pharmacol.*, 51: 979-989, 1999.
- 6) Yokozawa T., Lee K. I., Kashiwagi H., Cho E. J., and Chung H. Y.: Antioxidant Activity of Herbal Teas Available on the Korean Market. *J. Food Sci. Nutr.*, 4: 92-96, 1999.

◆ 総 説

- 1) 上野雅晴：癌化学塞栓療法における機能性塞栓材料としての温度感受性、磁気感受性リポソーム. *薬学研究の進歩*, 15: 11-20, 1999.

◆ 学会報告

- 1) 孫 常麒, 廣田紀子, 柏木 寛, 上野雅晴：コール酸ナトリウムを含むベシクル膜の性質. *日本薬学会第119年会*, 1999, 3, 徳島.
- 2) 孫 常麒, 廣田紀子, 花坂 彩, 小畑佳恵, 上野雅晴：ホスファチジルエタノールアミン/リゾホスファチジルコリン混合ベシクルの形成とその性質. *日本薬学会第119年会*, 1999, 3, 徳島.
- 3) 伊藤 卓, 奥田乙茂, 上野雅晴, 林 京子, 小暮健太朗：膜タンパク質の膜間移行を利用した膜融合性赤血球ゴーストの開発. *日本薬学会第119年会*, 1999, 3, 徳島.
- 4) 柏木 寛, 孫 常麒, 由利良吉, 相澤和年, 井上龍一, 小岩陽子, 上野雅晴：界面活性剤を含むリポソーム系の物性とミセルベシクル転移. *日本薬学会第119年会*, 1999, 3, 徳島.
- 5) 後藤有希子, 高田真友子, 中根祐子, 上野雅晴：原発性肝癌化学塞栓療法における薬物キャリアとしての多糖修飾リポソームの検討. *日本薬学会第119年会*, 1999, 3, 徳島.
- 6) 上野雅晴：癌化学塞栓療法における機能性塞栓材料としての温度感受性リポソーム. *第5回癌治療増感研究会*, 1999, 5, 京都.
- 7) 柏木 寛, 嵯峨崎伸二, 相澤和年, 孫 常麒, 上野雅晴：ESR法によるリポソームの物性研究とミセルベシクル転移. *第52回コロイドおよび界面化学討論会*, 1999, 10, 盛岡.
- 8) 上野雅晴, 孫 常麒, 柏木 寛, 廣田紀子：ミセルベシクル転移プロセスにおいてベシクルサイズを決定する因子. *第52回コロイドおよび界面化学討論会*, 1999, 10, 盛岡.
- 9) 孫 常麒, 花坂 彩, 柏木 寛, 上野雅晴：リソホスファチジルコリンによる膜構造の形成、破壊. *第52回コロイドおよび界面化学討論会*, 1999, 10, 盛岡.
- 10) 玉木慎也, 溝口智亮, 奥田乙茂, 中村智春, 上野雅晴, 林 京子, 小暮健太朗：インフルエンザウイルス感染細胞表面に突出したウイルス由来蛋白質の人工膜への移行. *第21回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム*, 1999, 11, 岡山.